

## 名古屋市名東区の明德公園及び猪高緑地の蜻蛉相今昔

高崎保郎

### 1. 緒言

明德公園及び猪高緑地の蜻蛉相については、1970年代から調査し報文或は研究発表等で明らかにして来た。両所は名古屋市がCOP10がらみで2009年度に実施した「名古屋ため池生き物いきいき計画事業」の調査対象の10池の内各々明德池、塚ノ杵池所在地として含まれている。昨2009年には、やはり対象の一つである名古屋城外堀とその周囲の自然の今昔について記述したところであるが（「名古屋城及び周囲の動植物誌」ため池の自然（47））、今回も上記調査に資する意味もあって再整理し記録に止めようとするものである。



図1 位置図

### 2. 名古屋市名東区猪高町藤森明德公園

#### (1) 概要

公園の敷地は昭和37年4月猪子石土地区画整理組合事業区域に入り、周囲は全て造成宅地化されたが、都市公園法に基づく公園にするため温存され、現在は概ね公園として整備されている。面積21.2ha。大部分はコナラ、アカマツ、ヒサカキ、ソヨゴ、カシ類からなる二次林で、エノキも混在する。その他竹林、ササ原、修景植栽、芝生裸地等から成る。

明德池の築造時期は不明であるが明治中期には灌漑用池として存在した。面積16.377㎡。昭和50年代初期迄に、堰堤法面をブロック張りに改修したが、同58年堰堤を段階式釣場に、一面の岸を芝生張り、コンクリート疑木岸とした。他の二面は樹林が土だが直立する岸まで迫り鬱閉される。



図2 明德公園

#### (2) 自然環境の変化と蜻蛉相の衰退

##### ア. 過去の記録

先ず山本悠紀夫氏の報文（山本、1983）と同氏の採集記録（愛知県の昆虫（上）、1990）によると、明德池では1971年にオグマサナエとフタスジサナエが採集されているが、この年以降3回に亘り改修が行われ、周辺の造成による緑被の減失も相俟って、これを最後に両種は消滅したと

見られる。また、明徳公園の属する大字の西に隣接する大字で1954年から1970年にかけてオオルリボシヤンマが4回計4♂採集されており、明徳池は林に囲まれた池であること、オグマ、フタスジが産する程の良好な池であることから、当時本種がこの池にも産した可能性は疑いない。

山本は同地で1964年から1971年の間に表1で示す16種を記録しており、当時は沈水・浮葉植物が存在したことが証明されるが、重なる改修水抜きと水質悪化により、その後消滅したのであろう。現在は僅かなヨシしか存在しない。

下って1970年代末からの筆者の記録は次の様である。

特筆すべきは、公園西寄りに連なる小高い陵線部の二次林を集水域として、池の西側上手に800m程の水規模な水田があり、1970年代末には廃田となっていた。この廃田湿地にハッチョウトンボ、モートナイトトンボ、ヒメアカネ、ヒメタイコウチ等を産したことである。1975年に自宅前の造成地の水溜りで、ハッチョウトンボ2♂を採集したが、これは約500m隔たるこの地からの移動分散によるものと推定される。この廃田湿地は1980年6月以降埋め立てられ駐車場にされた。公園工事の廃土の搬出費をケチり、口では緑の名東区を唱え乍ら、当時既に猪高緑地とここにしか多分残っていなかったであろう区内のハッチョウトンボの産地を埋めた名古屋市の認識不足による愚行であった。

陵線部西面の市道沿いにも小規模の斜面湿地があって、今も雨後にはその痕跡の湧水を見るが往時はここにもハッチョウトンボが居たであろう。

後年自然観察会関係者が、やはり陵線部西側の湿った場所に湿地ビオトープを作ったが到底本種が棲息可能な造りでもないし、近隣に飛来源もない。

1980年代迄は公園中央の草原上を夕方高飛するヤブヤンマ、数は少いが、マルタンヤンマを目撃した。当時は自宅庭や室内にもヤブヤンマが飛来し、庭上空で旋回するマルタンヤンマを2階テラスから採ろうとしたものであった。今は花壇となってしまったが林縁の小水溜りで産卵するヤブヤンマの姿も見られた。

1970年代から引き続き沈水・浮葉植物を欠き、それらを産卵基盤とする種は殆ど産せず現在に至っている。1980年最後のセスジイトンボ1♂を採集した（飛来かも知れない）。その中でモノサイトンボだけは、1987年迄は西側ヨシ帯で多産した。

廃田は埋め立てられたが集水域からの水は止まる訳はないので、埋立盛土と林の間の凹地に溝状に滞水し一部は竹林に浸襲し小池状となった。

### (3) 現況

#### ア. 樹林

林縁、竹林の一部が整理されたが、二次林全体としては従前と大した変化はない。二、三の林内小水溜りはなくなったが、旧草原は湧水により湿性化して来た。南部の林縁の灌木やススキ、クズマントが除去され芝生化、園芸化が進み、林縁の多様性が減退した。先駆性樹種アカメガシワが増やすと好ましいエノキの幼木を圧迫している。残すべきイボタの抜採もされている。カブトムシ、コクワガタ、カナブン、ヤマトゴキブリ等コナラ樹液に群れる種は、採集圧もあるであろうが一応健在である。

イ. 水域

(2) アで述べた滞水域は明德池への放水路はあるが淀んでおり、イ、ゴウソ等湿生植物は生じて来たが、沈水・浮葉植物の自生はない。ここ2年程のうちに、フサジュンサイ、ナガバオモダカの誤った自然観に基づくと見られる移入があった。

明德池は1983年の釣場化以降構造的には大きな変化はないが、沈水・浮葉植物は存在せず、釣餌による富栄養化も考えられ、透明度は22cmと悪い。1980年代迄に比べ廃田湿地の喪失と共に園内水域のトンボの種類は大幅に減っている。明德池は池畔のエコトーンや水草を欠くことにより、水生生物のハビタットとしての価値はなく、単なる釣堀りに過ぎない。

これに対し、廃田跡の湧水滞水域の水溜りに次の様な変化が起きている。

- ・オオシオカラトンボの幼虫が多く、成虫が常在する。
- ・クロスジギンヤンマ幼虫が多数棲息する。
- ・1970年の山本の記録以後、30～40年の間見ることがなかったオオアオイトトンボの幼虫、成虫が2009年に確認された。

オオアオイトトンボの移動分散能力は高い。自宅庭に1985年から1997年の間にテネラルな本種が少くとも10♂8♀飛来した。至近の発生源は直線で1.6km隔たった猪高緑地と推定される。自宅から500mの明德公園も同様な経緯で復活したものであろう。市はきちんとした浅い池と湿地に戻す様配慮することが望まれる。

(4) 蜻蛉相の推移

1964年から2009年迄を四つの期間に区切りその間の環境変化に伴う存在種数の推移を表1に示す。

3. 名古屋市名東区猪高町上社猪高緑地

(1) 概要

塚ノ杵池の存する猪高緑地は、名東区東端名古屋IC南に残存する66haの二次林丘陵地である。従来は東側陵線に接する長久手町長湫の丘陵二次林と一体となり広大な緑地を形成して来たが、長湫側は区画整理事業で全て造成宅地化したので緑の塊は半分になってしまった。二次林の構成は概ね明德公園と同じであるがより明るい。緑地内には何個か池があるが岸は切り立ち樹木が迫り、塚ノ杵池だけがエコトーンを有し、面積も最大の32,113㎡である。林内や谷には湿地や廃田跡がありハンノキが生育しミドリシジミを産し他にもミズイロオナガシジミ、ウラゴマダラシジミ等森林性の蝶が見られ環境の多様性は明德公園より遥に優れている。バブル時代には池畔にオチンを、その他野外音楽堂、遊園地、螢の里など施設を市は計画していたが、市民の強力な反対や幸にもバブル崩壊による経済的事由も

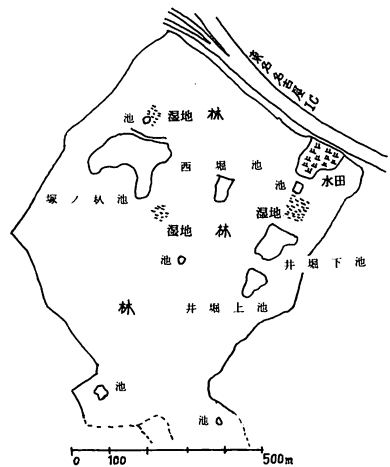


図3 猪高緑地 (南端省略)



ありそれは座折した。現在は程々の整備で収まっている。3本あるかつての谷津田のうち東端に位置するものは、保護団体により学習用水田や沼が整備され、現在の処湿地も有りアカトンボ類や黄昏飛翔性ヤンマの良いハビタットとなっている。

### (2) 緑地と塚ノ杵の蜻蛉相及びその変遷

調査を始めた1970年代後半以降緑地及び池は景観的には著しい変化は無い。塚ノ杵池は集水域たる二次林にも特段の汚染源はなく、1970年代から1990年代にかけての水質検査でもBOD 2以下、COD 6程度、全リン0.04mg / 以下、透視度50cm以上と良好である。目視的にも水は澄明で、この水質は現在も維持されていると思われる。抽水植物の主体はヨシ群落で南端は丈が高いが、東端では群落先端は疎で丈が低くこの状態は長年変らない。沈水・浮葉植物は、在来のガガブタ、ヒシ群落が、投入されたスイレンやフサジュンサイに圧迫されており、その経年変化については浜島の報告（浜島、1994など）に詳しい。ただしトンボの産卵基盤、ヤゴの潜む場としての機能を考えた場合は在来種も外来・移入種も違いはなく、とにかく単純に有りさえすればよい。外来・移入動植物の侵入を除いた要素については、1970年代から現在に至る迄大きな変化は見られないにも拘らず、池本体に依存するトンボの種類と個体数は減少している。外来魚の捕食圧はあるかも知れない。

1970年代末から現在迄に、岸に付帯する小湿地、東端のヨシ群落湿地状部を含む塚ノ杵池に棲息すると目される種は37種、林内の鬱閉された小池に拠るもの3種、林内の湿地または廃田湿地に拠るもの5種、飛来または一時的定着種6種計51種を記録した。早期に絶滅したのは、湿地草本の高莖化により棲息不能となったモートンイトトンボとハッチョウトンボ、総体的に減少傾向が進みRDB登載種となったオグマサナエ、フタスジサナエ、やや遅れてキトンボの5種である。かつて最普通種であったセスジイトトンボなどのイトトンボ類の個体数も減少した。原因が明らかかな湿地性の2種を除いて、確たる原因は見出し難い。

ベッコウトンボについて触れる。本種は何等かの原因で多分知多半島方面で大発生し、日進市や名古屋市千種区にも飛来した同時期の1986年から1990年の間の3年間だけ塚ノ杵池に棲みついた。羽化直後の個体も観察したので短期間とは言え定着したことは間違いない。本種はRDB国絶滅危惧Ⅰ類、愛知県同IA類該当で、「種の保存法」の国内希少野生動植物種に昆虫では第1号で指定された。

絶滅または減少した種がある反面、新たに塚ノ杵池に出現した種もある。それはベニイトトンボで2005年頃から2009年迄連続して発生している。県内の本種の産地は激減したが、近年名古屋市東部と尾張東部丘陵では新たな産地の発見が続いている。長久手町とその近傍に於る調査で、本種が強い移動分散力を有するらしいことが推定されている（高崎、2003）。塚ノ杵池の本種も元は長久手町辺りからの飛来であろう。

### (3) 蜻蛉相のまとめ

全記録種のデータを表2に示す。区分は必ずしも厳密なものではなく、例えば塚ノ杵池本体に棲むが緑地内の他の明るい池にも棲み得る種は少くない。あくまで主たる棲息場所としての区分である。然し湿地依存性が強い種が池本体に棲むことはない。池の明暗も棲む種を左右する。

表2 猪高緑地記録種一覧

主たる棲息場所区分	採集又は目撃種	種数その他	
		○印 2010年現在存在する可能性のある種	×印 絶滅種
塚ノ杵池本体と付帯湿地	キイトンボ 18-IX-1994 1♂	○	
	ベニイトンボ 18-VII-2007 1♂	○	
	アオモンイトンボ 13-V-1989 1♂	○	2010年確認し得ず
	アジアイトンボ 20-IX-1986 1♀	○	
	クロイトンボ 28-X-1998 1♂	○	
	セスジイトンボ 29-V-1988 1♂	○	2010年確認し得ず
	モノサシトンボ 23-IV-2002 目撃	○	
	アオイトンボ 18-IX-1994 1♂1♀	○	
	オオアオイトンボ 5-X-1986 2♂1♀	○	緑地内の他の池も可
	オツネトンボ 3-V-1978 目撃	○	
	ホソミオツネトンボ 10-V-1986 1♂	○	
	フタスジサナエ 14-V-1978 1♂	×	
	オグマサナエ 5-V-1986 1♂	×	
	ウチワヤンマ 18-VII-1986 目撃	○	
	ギンヤンマ 11-IX-1994 1♂	○	
	オオヤマトンボ 15-VI-1986 1♂	○	
	トラフトンボ 16-V-1887 目撃	○	
	ハラビロトンボ 15-VI-1986 1♂	○	緑地内の他の湿地も可
	シオカラトンボ 18-IX-1994 1♂	○	
	シオヤトンボ 7-V-2007 目撃	○	緑地内の他の湿地も可
	オオシオカラトンボ 2-VIII-1975 1♂	○	
	ヨツボシトンボ 29-V-1994 2♂	○	
	コフキトンボ 2-VIII-1975 1♂	○	
	ショウジョウトンボ 28-V-2007 目撃	○	
	アキアカネ 18-IX-1994 1♂	○	緑地内の水田も考えられる
	ナツアカネ 18-IX-1994 1♂	○	緑地内の水田も考えられる
	マユタテアカネ 20-IX-1986 1♂	○	
	マイコアカネ 6-VII-1986 1♀	○	
	ヒメアカネ 23-IX-1986 撮影	○	緑地内の他の湿地も可
	ノシメトンボ 18-IX-1994 1♀	○	緑地内の他の池・水田も可
	コノシメトンボ 11-X-1976 1♂	○	緑地内の他の池も可
	リシアカネ 23-X-2007 1♂	○	緑地内の他の池も可
	ネキトンボ 30-IX-1986 1♀	○	
	キトンボ 30-IX-1986 1♂	×	
	コシアキトンボ 2-VI-2006 撮影	○	
	テョウトンボ 22-VIII-2008 目撃	○	
	ウスバキトンボ 18-IX-1994 1♂	○	
			37種
緑地内の他の池	ヤブヤンマ 27-VII-2004 1♂	○	
	クロスジギンヤンマ 目撃	○	
	タカネトンボ 23-IX-1986 1♂	○	
			3種
緑地内の他の湿地	モートンイトンボ 7-VII-1989 1♂	×	
	サラサヤンマ 5-VI-1994 1♂	○	
	ネアカヨシヤンマ 30-VII-2004 1♂	○	
	マルタンヤンマ 27-VII-2004 目撃	○	
	ハッチョウトンボ 31-V-1986 1♂1♀	×	
			5種
飛来種	コオニヤンマ 14-VI-1987 目撃		1回のみ、流水性
	アオヤンマ 1991		1回のみ、吉田雅澄記録
	オオギンヤンマ 6-X-1998 1♂		1998年に限っての大量飛来
	オニヤンマ 15-VIII-1987 目撃		緑地内で発生の可能性もある ○
	ベッコウトンボ 5-V-1987 1♂		1986~1988のみ
	ハネビロトンボ 16-VIII-1987 1♂		稀であるので飛来種とする ○
			6種
		計51種 ○印42種 ×印5種	

#### 4. 文献

- 1) 高崎保郎 (1981) 小さな蜻蛉と小さな自然環境. 職員あいち、(29) : 26.
- 2) 高崎保郎 (1986) 塚ノ杵池とその周辺 (名古屋市名東区) のトンボ. ため池の自然、(4) : 9-10.
- 3) 高崎保郎 (1987) 名古屋市名東区及び日進町の溜池の注目すべきトンボ2種. ため池の自然、(5) : 3.
- 4) 高崎保郎 (1987) 塚ノ杵池とその周辺 (名古屋市名東区) のトンボ (第2報). ため池の自然、(6) : 13.
- 5) 安藤尚・山本悠紀夫・高崎保郎・相田正人 (1990) 愛知県のトンボ目. 愛知県の昆虫 (上) : 9-78.
- 6) 浜島繁隆 (1994) 塚の杵池 (名古屋市) の水草相11年の動態. 水草研究会会報、(54) : 19-22.
- 7) 山本悠紀夫 (1983) 名古屋市周辺のオオルリボシヤンマ. 佳香蝶、35 (136) : 53-57.